

HSK3 級 e ラーニング学内教材の開発と効果

劉 国彬* 片桐 重和**

The Development and Effect of Using On-Campus e-Learning Materials for the HSK-3 Level Test

Guobin LIU* Sigekazu KATAGIRI**

ABSTRACT

The passing rate of students taking the HSK-3 level test for the students of Fukuyama University had been relatively low until 2019. To improve the performance of those test takers and make the learning materials available anywhere and anytime, with the Education Promotion Grant funding, we have developed and implemented five sets of HSK-3 level test e-Learning materials from August of 2019 to November of 2020. With the help of two sets of e-Learning materials the test takers raised their passing rate to 86% in 2019 (higher than the average of 65.3% from 2012 to 2019). In 2020, we used all five sets of materials as a required part of final tests and pushed 75% more students to take the test and raised their passing rate to 100%.

キーワード：HSK、e ラーニング、教材

1. はじめに

HSK とは、中国政府公認の中国語検定で、世界共通の基準による資格試験である。学生は HSK 資格を取得すれば、中国留学、就職などに有利になる。この資格は、現段階で初級レベルの 1 級から上級レベルの 6 級まで、6 段階に分けられる¹。

本学では中国語学習者を対象に、近年毎年7月と12月の年2回、HSK 中国語検定（以下、HSK と略する）試験を福山大学孔子学院の会場で実施している。受験者は年々増加し、特に、「中級中国語 I」と「中級中国語 II」を履修している学生はほぼ全員 HSK 試験を受ける。しかし、問題点は3級以上の各級の合格率は芳ばしくないことである。図1で示すように、福山大学の2012年度から2019年度の1級から5級までの合格率は、それぞれ86.4%、90.1%、65.3%、64.3%、27.3%である²。そのうち、HSK2級と3級の間には、約25ポイントもの差が開いている。また、4級と5級との間にも、40ポイント近くの差がある。学生の就職の際には、HSK 資格4級取得者はきわめて優遇されるといわれているが、現在では、HSK3級がネックとなり、それをクリアしないと、4級を目指すことが難しい。したがって、まずは、HSK3級の合格を向上させることが急務となっている。

現在までは、主に中国語・文化倶楽部（福山大学有志による勉強会）の活動時間を利用して、それぞれのレベル（3級～6級）に合わせて指導を行っているが、時間の都合で一緒に学習できない学生が多くいる。そこで、平成 29 年度から、その対策として、福山大学孔子学院の先生方に協力してもらって、大学内で放課後の 6 時限目に、対策講座を複数回実施した。受験者が希望する時間を事前に調査して、それに合わせて対策講座を実施したが、実際には参加できない学生が多数いた。このことを鑑みて、筆者らは学内の学修支援システム（セレッソ）を利用し、e ラーニング学修教材開発を着想し

*大学教育センター准教授

**IR 室助教

た。eラーニング学修教材があれば、学生はパソコンやスマートフォンで自分のペースでこの学修教材（セLESS上に作成）を使い、繰り返し学修することにより、最終的に成績が向上し、HSKの合格につながることを期待される。

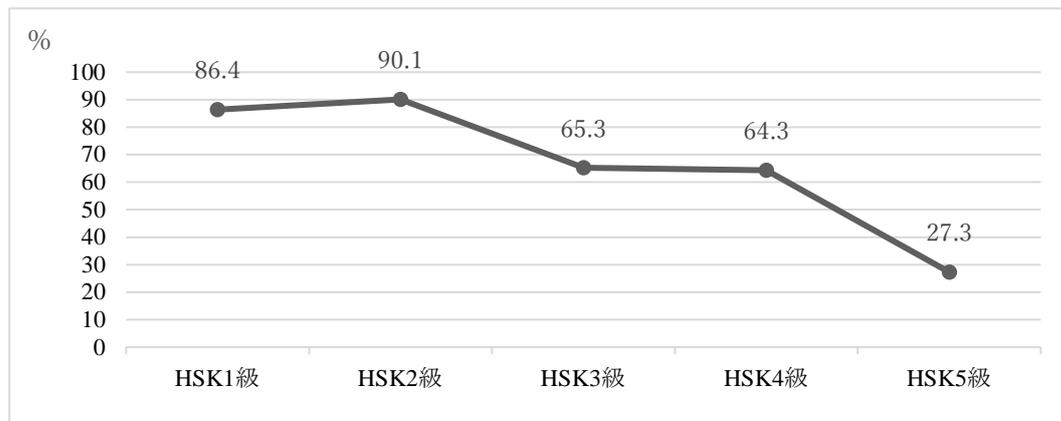


図1 HSK1級～5級の福山大学の平均合格率（2012～2019）

2. 実施方法

(1) 教材対象選定と協力者の要請

今回のeラーニング学修教材はHSK3級を中心にして開発した。教材選定にあたって、国家漢辦³が編集、高等教育出版社が出版している『HSK真題集（三級）』（2014版）、「国家漢辦」が編集、北京語言大学出版社が出版した『標準教程 HSK3 練習冊』（2014年）、『中国語検定』（2015年度最新版）から、今まで指導した学生の点数が取りにくかった問題を摘出し、必要な修正を加えて、本学の学生のレベルに合わせて、学生が使いやすいように独自のリスニング教材・読解教材・作文教材を5セット作成し、セLESSにて公開した。

HSK3級の出題パターンは、リスニング、読解、作文に分かれる。まず、リスニングや読解問題にはオリジナルの音声およびオリジナルの写真（リスニングの第一部分は写真を見て判断する問題であるため）が必要である。また、作文の問題では、文字入力、正誤確認などを行う必要があるなど、eラーニング教材には、高い精度が求められる。そこで、福山大学孔子学院、および福山大学の中国人留学生の協力を得た。

(2) 教材作成

教材作成は、学期中は実現が難しく、まとまった時間で集中する必要があると考え、主に夏休みの時間を利用した。そして後期授業が始まった後、学生に問題を解いてもらうような流れで実施した。教材作成は2019年8月20日から11月25日の間に行った。

1) 問題作成

8月20日～24日、孔子学院の会議室を利用し、孔子学院の先生と協力し、上述の三冊の資料から問題を選定し、適切な修正を加え、HSK3級のリスニング、読解、作文の問題を5セット作成した。

2) 文字入力

8月26日～27日、中国人留学生2人の協力を得て、作成問題をパソコンで文字入力作業をした。

3) 入力したデータを編集整理

8月28日～9月10日、筆者が作成した問題の修正と編集作業をした。

4) リスニング問題録音

9月11日～12日、中国人留学生2人、孔子学院の先生と合わせて6名が男女役割を分けて、リスニング問題の録音をした。

5) 写真撮影

10月11日、孔子学院の先生の協力の下で、オリジナル写真を撮った。

6) すべてのデータの整理とセレッソにアップ

10月25日～11月25日、これまで作成したデータを教材化する作業を実施し、確認した。セレッソへのアップは、2019年に2セット、2020年に3セットと2回に分けてアップした。

3. 作成した教材の試用と効果

eラーニングの実施は、二段階に分けて行った。第一段階は2019年度の「中級中国語Ⅱ」を履修する学生を対象に、2019年12月18日までに作成した教材の2セット分で実施した。第二段階は2020年度の「中級中国語Ⅱ」の履修者を対象に、2020年12月9日までに作成した5セットで実施した。

(1) 2019年12月までの実施状況

HSK3級のeラーニング教材を用いて、「中級中国語Ⅱ」を受講している学生17名を対象に試用を実施した。1回目は、11月25日の授業中に第1セットを実施し、14名が回答、回答率は82%（平均正解数80問のうち40問）であった。2回目は、12月18日に第2セットを授業外で任意実施し、6名が回答、回答率は35.2%（平均正解数80問のうち28問）であった。第1セットと第2セットで、6割弱の点数を取った学生のHSK受験率は47%であった。また、その他の学生の多くが50%程度は正解している（図2）。

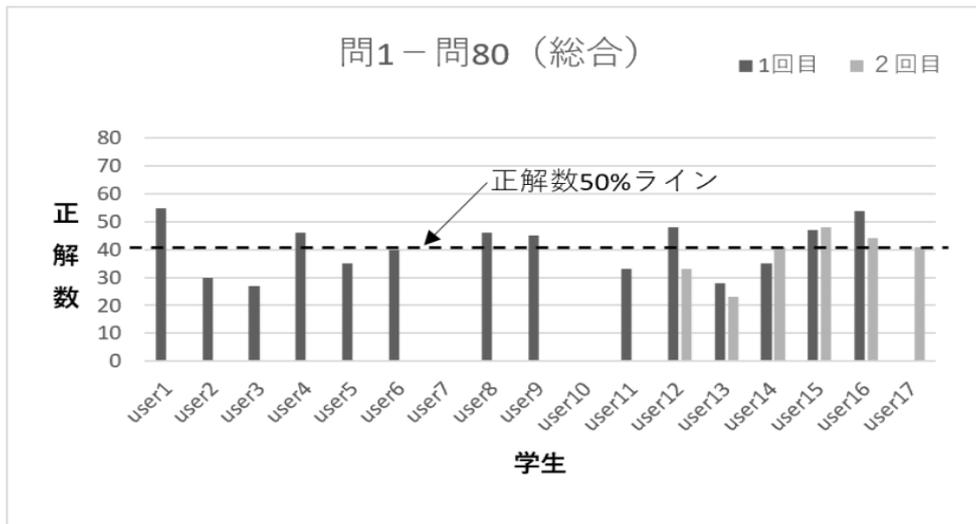


図2 正解数と学生

次に、問1～問40（リスニング問題）は、音声を聞いて質問に答える形式の問題である。1回目の回答者の平均正解数が17問、2回目の回答者の平均正解数が18問である。図3の点線枠で点数を囲んだ学生User13、User14、User15は、2回ともほぼ同様の回答正解数である（図3）。

問41～問70（読解問題）は、読んで質問に答える形式の問題である。1回目の回答者の平均

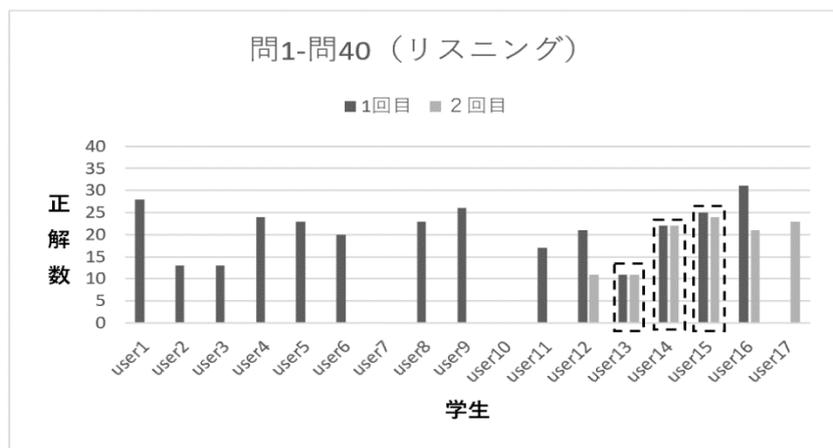


図3 問1-問40（リスニング）の正解数と学生

正解数が12問、2回目の回答者の平均正解数が15問である。図4の点線枠で点数を囲んだ学生 User14、User15、User16は、正解数が1回目より、2回目の方が上がっている(図4)。

問71～問80(作文問題)は、書いて質問に答える形式の問題である。1回目、2回目とも回答者の平均正解数は3問であった。1回目の小テストでは、10問すべて正解した学生 User1(図5の二重点線枠で点数を囲んだ学生)がいた。また、図5の点線枠で点数を囲んだ学生 User14、User15は正解数が1回目より、2回目の方が上がっている(図5)。

最後に、2019年12月1日のHSK3級試験を受けた学生は8名で、合格率は、86%であった。なお、HSK3級のeラーニング学修教材は、11月25日の授業中に第1セットを実施し、第2セット目は12月18日に実施した。2回目は、HSK試験の後の実施となったため、HSK3級のeラーニング学修教材と受験結果との直接的な関係を説明するのは難しいと思われる。

(2) 2020年12月までの効果

2020年度の前期は、新型コロナウイルス感染症の流行により、大学は5月中旬からオンライン授業の実施が始まり、さらに、7月のHSK試験の実施も危ぶまれたため、「中級中国語Ⅰ」の学生にHSK3級のeラーニング学修教材の使用を呼びかけなかった。したがって、今回の分析対象にはならない⁴。後期に入り、11月までに、HSK3級のeラーニング教材の残りの3セットをすべて用意した。2019年度に2セット目を授業外で任意実施した結果、回答した学生数が少なかったことから、2020年度後期は、学年末テストの成績の一部としての課題と伝え、すべて授業外に実施した。結果的に、5セットを受けた学生の割合は75%に上り、回答者が大幅に伸びた。2020年度後期「中級中国語Ⅱ」履修者は20名、うち、2020年12月6日のHSKの受験者は6名(HSK2級は2名、HSK3級は4名)であった。合格率は2級50%、3級100%であった。以下、eラーニング教材5セットを受けた結果およびHSK3級受験結果に絞って、その関係を具体的に考察しておく。

図中の名前前の「*」は、受験した学生を示しており、太線枠の学生は、3級に合格した学生(リスニング、読解、作文、計80問)、点線枠の学生は、2級に合格した学生(リスニング、読解、計60問)を示している。なお、2級、3級とも6割が合格の目安と言われている。

図中の点線ラインは問題数の6割ライン(1問1点で計算)である。例えば、図6の場合、「48=80問×6割」と計算した。HSK3級に合格した学生(太線枠の学生)はHSK3級のeラーニング学修教

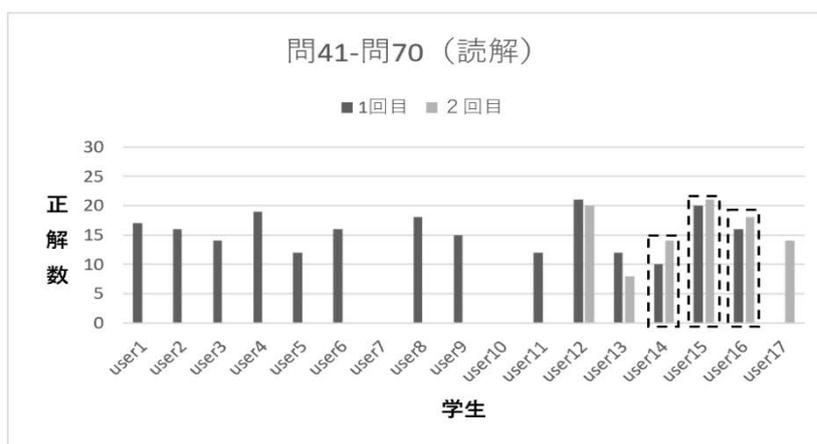


図4 問41-問70(読解)の正解数と学生

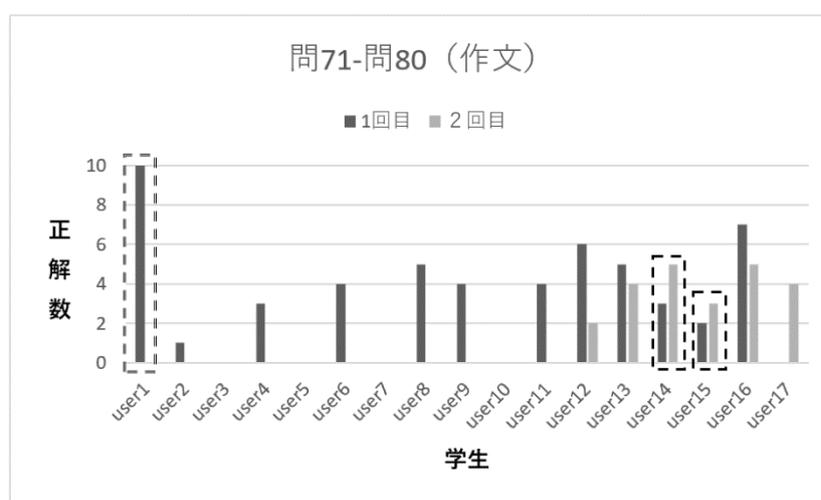


図5 問71-問80(作文)の正解数と学生

材の得点が高い傾向が現れた。userF と userO は今回受験していないが、e ラーニング学修教材では高い点数を取れている。したがって、userF と userO は受験し合格することが可能かと思われる (図 6)。

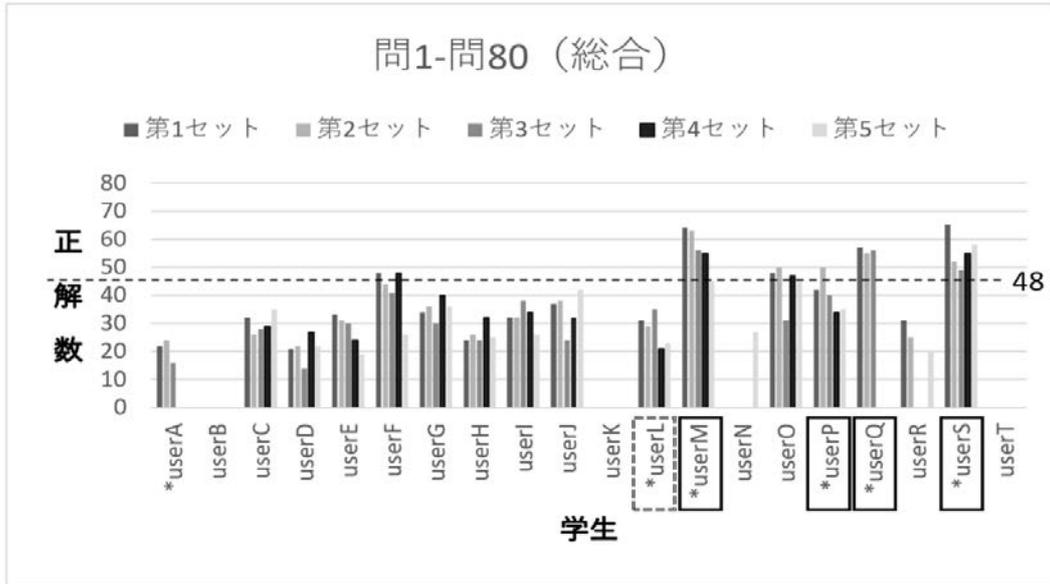


図 6 正解数と学生

図 7 の点線ラインは、第 1 セットから第 3 セットまでの合計の 6 割ライン (1 問 1 点で計算、合格した学生の小テスト受験回数 3 回を基準とした) である。例えば、「140=80 問×6 割×3 セット (第 1 セットから第 3 セット)」と計算した。3 級を合格した学生は、第 1 セットから第 3 セットまでの正解数の合計が 6 割 (140) を超えている。図 6 と同じように、userF や userO は受験していれば合格した可能性を示している。

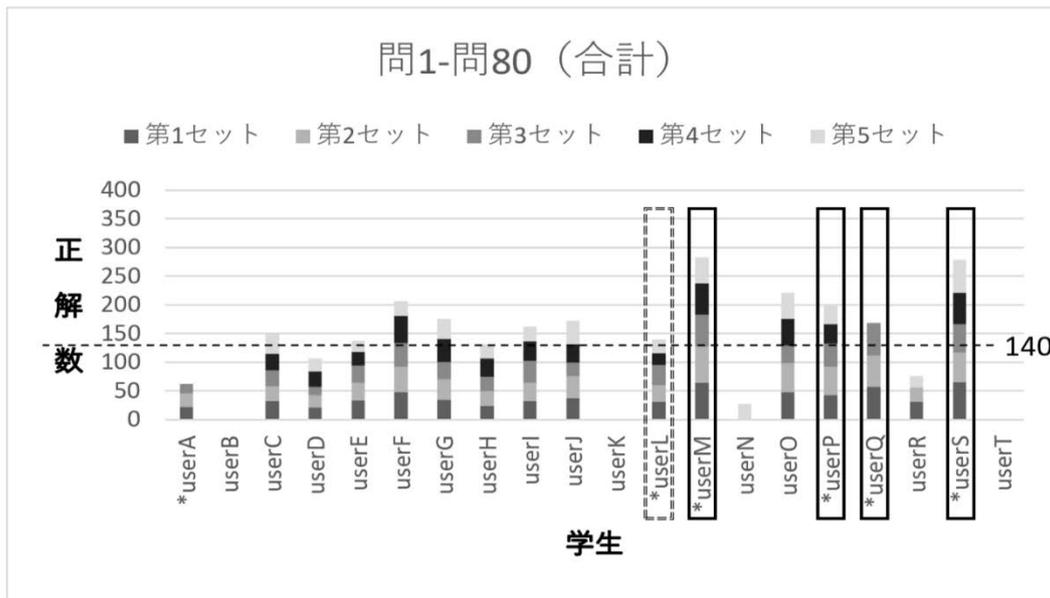


図 7 正解数と学生

次に、「リスニング」、「読解」と「作文」の三項目別で考察しておく。

HSK3 級試験に合格した学生は、e ラーニング学修教材のリスニング成績は必ずしも良くない。これは、HSK の配点方法 (非公開) により、三項目 (リスニング、読解、作文) 合計で 6 割取得すれば合格できるという基準によるためである。ここで注目したいのは、userF はリスニングの点数が高いこと

である。userFはHSK3級を受験すれば合格する可能性が高い理由は、リスニング力が高いことによる(図8)。

HSK3級を受験し合格した学生は、userPを除いて高得点が取れている。userFは、読解の点数がリスニングの成績ほど良くない。これが、HSK3級受験をしなかった要因の一つだと思われる。userJとuserOは受験していないが、読解力が割と高い(図9)。

HSK3級に合格した学生は、作文の成績はリスニングより良かった。なお、userFは、作文ができていないため、受験をあきらめたと推測する。HSK3級の作文は10問しかないが、3分の1の配点となっている。3分の1は正解する必要がある。userCとuserJは作文にもう少し力を入れ、受験すれば合格する可能性が高い(図10)。

上で見てきたように、受験に合格した学生は、いずれもeラーニング学修教材のリスニング、読解、作文の成績が良かった。一方、受験していないuserFとuserJとuserOは弱いところを克服すれば合格することができることが確認できた。

なお、2019年12月と2020年12月の実施状況の分析には、すべて、学生の成績の正解数を用いて分析した。今後、調査協力者の母数を増やし正解率を分析する必要がある。また、eラーニング学修教材を使って、調査協力者の弱点(弱いところ)を明確にする。そして、教材の利用による学修効果とHSK試験の合格との

相関について統計的に分析していきたいと考えている。

4. おわりに

本オリジナル中国語eラーニング学修教材は、本学の学内で初めての試みとして、学生がいつでも利用できるように実現できた。eラーニング学修教材として学生の中国語学修に利便性を提供したと言える。

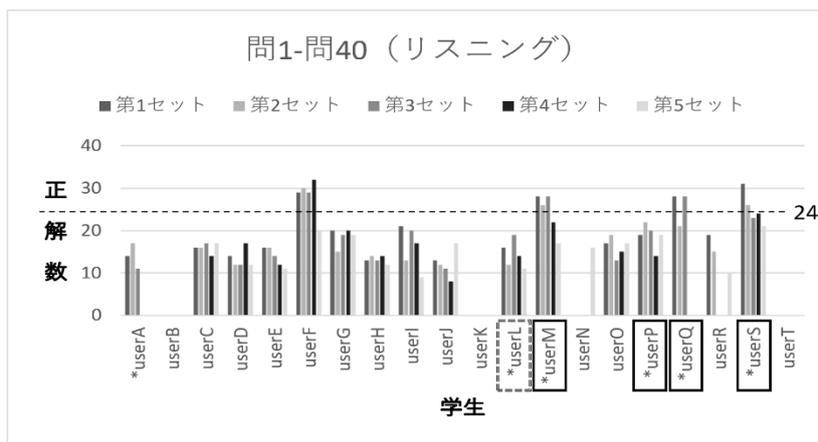


図8 問1-問40 (リスニング) の正解数と学生

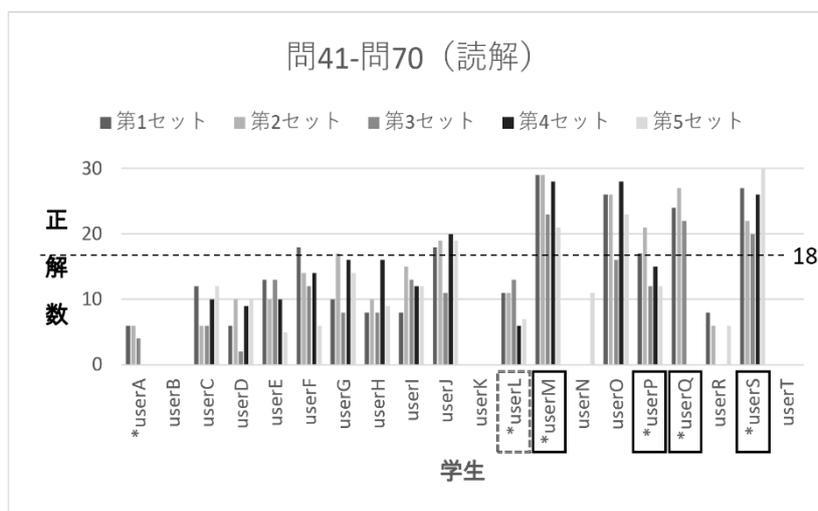


図9 問41-問70 (読解) の正解数と学生

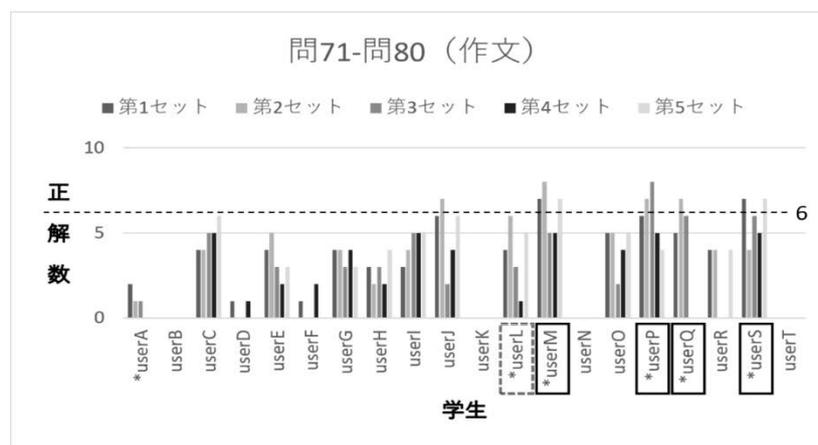


図10 問71-問80 (作文) の正解数と学生

本学修教材を使用し、2回（2019年度と2020年度）の実施方法については、学生の任意実施から学年末の成績の一部へ転換したことにより、eラーニング学修教材を受ける学生が75%にまで増えた。eラーニング学修教材の得点が高い学生は、HSK3級に合格した。言い換えれば、受ける回数が多くなるにつれて、成績にアップすることにつながったと言える。

次に、HSK3級の合格率から見ると、2019年度は86%に対し、2020年度は100%に上った。また、受験していない学生に関して、弱いところを克服すれば合格する可能性が高い学生がいることが分かった。現段階の結果を受け、HSK3級の合格率を10%以上アップする目標が達成された。将来に向けて本学の中国語教育のレベルアップに一助できたと言えよう。

今後、eラーニング学修教材の数を増やし、より中国語を聞いたり、読んだり、書いたりできる環境を増やすことでHSK試験の受験者数やその合格者数は増えていくと思われる。また、より高いレベルの試験に挑戦する学生も増えると予測し、今回の結果を受けて、より高いレベルの試験のeラーニング学修教材を用意するなどを検討したい。また、ドリル形式にして、弱い部分を重点的に取り組めば、中国語への興味、HSK試験の受験者等が増えるのではないかとと思われる。ドリル形式に変更するには、今回作成したeラーニング教材を現在の形式からドリル形式に編成し直して実施すればよく、2節の(2)で説明した教材作成の作業を大幅に、軽減できる。ただし、今後のHSKの試験の形態との兼ね合いを考慮する必要があると思われる。

【謝辞】本eラーニング学修教材の作成は令和元年度福山大学教育振興助成金事業の支援を受けた。また実施に当たって福山大学孔子学院元講師宋卓時氏に多大のご協力をいただき、また副学院長郭徳玉氏、ボランティア講師馬旋氏、元ボランティア講師李航宇氏、専門学校広島国際ビジネスカレッジ講師ショウビン氏にもご支援いただいた。ここに記して感謝したい。

写真 教材作成の様子



問題作成中

録音中

【注】

- ¹ 今後、HSK試験レベルの等級が6級制から9級制になり、1～3級は初級、4～6級は中級、7～9級は上級と分類されると言われている。
- ² 劉国彬「HSK試験の回顧と考察」『大学教育論叢』第6号、福山大学大学教育センター、2020年3月、24頁。
- ³ 「国家漢辦」は2020年7月時点で「教育部中外語言合作中心」に名称を変更した。
- ⁴ 2020年7月12日に実施されたHSK試験に参加した「中級中国語Ⅰ」の学生は5名であった。そのうち2級を受けた学生は3名（2名合格、1名不合格）、3級を受けた学生2名は全員不合格であった。